第５回　亀山市総合計画審議会　議事録

開催日時	平成 28 年 10 月 31 日（月）　14：00～16：00
開催場所	亀山市役所　３階大会議室
議事項目	1．会長あいさつ 2．第２次総合計画の諮問 3．第２次総合計画の審議 (1)基本構想について (2)前期基本計画戦略プロジェクトについて
議　　事	1．会長あいさつ 【会長よりあいさつ】 2．第２次総合計画の諮問 【事務局より諮問の位置付け、方法等の確認】 【市長より審議会へ総合計画案についての審議の諮問】 （市長　公務により退席） 3．第２次総合計画の審議 (1)基本構想について 【事務局より資料説明】 （会長） ・資料１「基本構想」の内容について審議を進めたい。どこからでも結構ですので、お気づきの点などがございましたら、ご発言がある方は手を挙げてご発言をお願いしたい。 ＜将来都市像について＞ （委員） ・基本構想の１１ページですが、「歴史・ひと・自然が心地よい　緑の健都　かめやま」と大きな見出しが出ているが、この「健都」の意味を、私は当初「健康」と捉えた。しかし、全体を読んでいくと、これは「健全都市」と捉えた方がよいかと、自分自身で考えるようになった。すなわち、ここでは「健都」という形でコンパクトに表記してあるが、健都とは健康なのか健全なのか、または両方にかかっていることもあるのかについて確認させていただきたい。 （会長） ・１１ページの下の所に「歴史・ひと・自然」についての説明はあるのですけれども、「健都」の説明がないのですね。なので、今ご質問がありましたように、この「健都」の意味について、「健康都市」とも捉えられる。亀山市は健康都市連盟に加入していますので、その関係なのか、あるいは「健全」とも読める。この「健都」について、「健康都市」なのか「健全都市」なのか、あるいは別の意味が含まれているのかなど、事務局から今までの議論を教えていただけないでしょうか。 （事務局） ・事務局としましては、「緑の健都　かめやま」とは、言ってしまえば「緑の健康都市　かめやま」という意図で整理をさせていただいている。先ほど、会長からもおっしゃっていただきましたとおり、健康都市連合に加盟していることもございまして、亀山市

としては健康都市ということを意図したような政策をこれからしていきたいという思いを持っている。そういうことで、ここはそういった名前を使っている。

（会長）

- 読んでいただいて「健全」というイメージもあったということですけれども、その辺はいかがでしょうか。

（委員）

- これは、私たちが読むのではなくて、市民が読むわけですね。そのときに、今言ったような説明を受けなければ市民は分からない。大きくいえば、「健康」とは一義的には理解できるのですが、「健康都市」ならばはっきりと「健康都市」の方がよいのではないか。

（会長）

- 「健都」という言葉について問題提起がありましたが、１１ページの内容全体について、他にご意見がありましたら、この際議論したい。

（委員）

- 私も同じように、この「健都」が非常に気になった。私はこの「健都」という言葉を見たときのイメージが、健康医療都市のような、医療機関に力を入れる都市とイメージした。しかし「健康都市」ということだった。「健康都市」というからには、もう少し何か具体的に示していただいた方が、健康都市と胸を張っていえるような気がする。

（委員）

- 私は、健康都市に関する会議も出席させていただいていましたので、むしろ「健康都市」とは、うまく言葉をごろ合わせをしていただいたなと思う。そうはいっても、先ほど他の委員も言ったように、まだまだ市民には「健康都市」についてのアピールが少ないので、ぴんと来ない部分があるかもしれません。逆手を取って、「健康都市」に加盟しているのだから、ここで「健康都市」をつけたと補足説明なりをつければよいかと思う。

（会長）

- 今いただいた意見は、とても重要だと思いますので、このページは、少し改善をお願いした方がよいと思う。

（委員）

- 私も、この「健都」という言葉が気になる。いろいろ考えたのですけれども。今までの議論や全体の基本構想も含めて考えると、健康都市だけの打ち出しでは狭いのではないか。既にある亀山の医療機関や医療の制度が、他市町村から見て、優れた取り組みをしているかといいますと、必ずしもそうとはいえない部分がある。だとすれば、よほど医療の面で健康維持に力を入れることを全面に出したまちづくりをするならばともかく、そうでもないのではないかという気がする。むしろ、他の委員が言われたような「健全都市」として幅広くとらえ、例えば「持続的に成長する」や「歴史文化を生かして」、「自然を生かして」、「心・体が豊かに暮らせる」、「安心して暮らせる」など、いろいろな意味で、この時代を、これからの時代を切り開いていく健全な町といっていくべきではないか。規模としても、健康の面からいっても、子育てにしても、産業基盤にしても、従来とは違った形を打ち出すという意味で行くと、もう少し広く捉えた打ち出しの意味を込めた方が、もっともっと亀山のよさを込めたものになるのではないか。「健康都市」としてしまったら、むしろ狭くなるのではないか。

（委員）

- 健康都市の意味を、事務局に確認したいのですが、健康とは、文脈から行くと、医療などの意味ではなくて、「心身ともに健やかな日々を過ごせる『ひと』の暮らす亀山」

	というものを受けて、「健都」というものを使っている。それが健康都市という意味であれば、例えば「産業は健康である」など、「健康」という言葉を広く使っているのではないか。おそらく、「健全」に近い意味ですね。いろいろな面が「健康」であり、都市として「健康」であるという意味合いではないでしょうか。そうではなくて、もし少なくとも心身、人の心身の健康という意味だけでしたら、委員が言うように少し狭いかと思う。仮に広い意味で使われるのならば、11 ページ下から３行目の「亀山市。」の次の「こうした」の後ろ、「こういう亀山市を目指したい」の次に、それがなぜ健都という言葉で受けるのかということを、少し説明をする必要があるのではないか。例えば、産業も健全でなければいけませんし、日々の暮らしも健全でなければいけない。あらゆる面で健康・健全でなければいけませんので、そういう健全と健康とをすべてひっくるめて「健都」という言葉で受けたい、という解説があって、そしてそういう思いがここに書かれていれば、かなりすっきりいくかと思う。 （事務局） • 委員の言われたそれぞれの「健康」で、どちらかといいますと、意味合いとしては健全の方かと考えている。私どもとしては、もっと広い意味で置かせていただきたい。ただ、そのときに、市の特色といいますか、ＷＨＯの国際健康都市連合に加盟しており、その意味の健康都市といいますと、やはり少し狭義の狭い意味になってくる。ただ、それらの経緯も踏まえて、そこでの「健康」だけにとらわれず、都市の健康やこの調和度合、自然や人や歴史の調和した心地よさ、住みやすさの状態が調和している状態を、「健康」と表したいという意味がある。対して、そういった点の分かりづらさが、意見として出たというところが、説明として足らない部分でもあるかと思う。そのためそれらの内容の補足が必要かとは感じているが、意味合いとしては、先ほどの委員からいただいた考え方を踏まえていきたい。 （会長） • もともとＷＨＯが「健康都市」といい始め、これは日本語でいっているわけではないのですが、それを翻訳したときに、日本語として「健康」を当てはめたわけですね。そのときに、少し概念が狭くなってしまっていた可能性がある。既に使っているわけですけれども、もともとのいろいろな最初のコンセプトなどを考えると、多分日本語でいう「健全」も含まれると思うので、その辺は確認していっていただきたい。これは私の意見も半分入っていますが、「緑の健都」という言葉は、恐らく市長も気に入っていて出されているわけですので、ここの部分を、変に「健康都市」とするのではなくて、健都は健都で残しておいて、この下の解説において、「健康都市」について「健全」という言葉もうまく入れて、人間の健康、つまり健康・医療のことだけではなくて、広い意味での持続可能性、健全性を意味するのだと書いてくれると、多分この基本構想、基本計画の内容ともうまく合う。目標としても、目指すべき将来都市像としても広くなるので、よろしいかと思う。ここはそういう改善をお願いしたい。 （委員） • この案をみたときには、よい名前をつけていただいたと感じた。「緑の健都」とは素晴らしい名前だと思ってみさせていただいた。長い目で見ましたら、平成３７年までの計画であり、今いろいろ意見が出ておりますけれども、健康ばかりではなく、時代の流れで３７年まで通用できるような説明を、市民にしていただいた方が、よく分かるのではないかと思う。含みがあることはよいことであって、いろいろと時代の流れで変わってくる場合もありますけれども、説明をもう少し詳しく、市民によく分かるような内容を入れていただけたらありがたい。 （会長）

	• 「緑」も、実はいろいろな意味があるの。英語で「green」とは「環境に優しい」という意味で使う場合もありますけれども、単純に植物や緑を指すだけでなく、そういう意味では、よい言葉を選んでいただいたので、解説をきちんとしていきたい。 （委員） • 僕は、逆にあまりごちゃごちゃ書くのは反対でシンプルがいい。 （会長） • 11 ページの上のスローガンについて、多分、みなさんよく覚えてくれると思う。 ＜都市空間形成方針について＞ （委員） • 全体の作りのようなことを見せていただいて、なかなかよくできているなという具合に感じた。その中でかなり意欲的なものが、「都市空間形成方針」というものがあって、将来の都市像を設計するためには、このようなハードといいますか、町の姿をこのようにしていきたいというところが入って、この辺りはよいと思っている。他の市町では、あまりこういうこと、むしろ書かなくなってきているのはどうかと思っていたので、なかなかよいと思っている。その中で少し気になることが、16 ページの「基本的な考え方」。この基本的な考え方も、これもよいと思うのですけれども、例えば、少し気になっているところが、①と③の関係なのですね。コンパクトなまちづくりを進めましょうということはなかなかよく、中心的都市拠点を強化しようということも、非常によいと思う。けれども、これを実現するために、今、構想に書いてあるような捉え方では、少し弱いのではないか。どのようにこういう形を作っていくか、①・③を作っていくかと読んでみると、①の最初の２行に、「駅の周辺に都市拠点が形成されて」と書いてあるのですけれども、まずこれは少し違いますよね。実際には亀山駅しか、僕は知らないのですけれども、駅と商店街が少し離れていて、駅の機能が都市機能となかなかうまくリンクできていないという悩みがあるうえに、この中心商店街の方が少し空洞化してきていて、都市機能の中心性がどんどん失われている現実がありますね。それに対応せずして、今度は 16 ページの一番下ですが、「鉄道駅を中心とした既存市街地への都市機能の誘導を行う」だけでは、なかなか「目指す姿」になっていかないと思う。実際にどうしたらよいのか、会長のお知恵なども恐らく借りなければいけないのだと思うのですが、まちづくりやソフト事業などともリンクしていく必要がある。だから、ここの都市空間形成方針のところをどのように書くかということもありますが、他の施策大綱を受けて、「快適さを支える生活基盤の向上」のために具体的には基本計画で何をやるのか、にも関係してくる。積極的にそこへいろいろな、都市が活性化するようなまちづくりを何か進めていって、そして機能的には分散化をしないようにしていく。その両面で行かなければ、恐らくうまく行かない。ここでの記載は都市の空間形成ですから、この程度しか書きようがないのかもしれませんが、何か基本計画の背景にしても、これで実現していけるといったような、このような①や③が実現していけるかが少し見えてこない。具体的な施策を含めて、もう少し検討をする必要があるのではないか。全体としては、非常によくできておりますが、そこが気になる。 （会長） • お褒めいただいたとおり、都市空間形成方針を作った自治体は、他にあまりないと思う。昔は土地利用構想が、どの自治体も総合計画にはあって、これは人口が増えていくので、市街地をどんどん作っていかなければならず、その場所をきちんと書いていったという経緯が大きいと思う。併せて、インフラをいろいろ整備しなければいけな

いので、地図上にその具体的な場所を表して示すということであった。最近、人口もそれほど増えませんので、各自治体が都市利用構想を作ることをやめてしまった所が多いのですが、亀山の場合は、私もこれを強く主張しまして。町が広がらなくても、今ある町をきちんと再構成して、うまく使っていかなければならないので、そのための方針をきちんと地図上に示そうということで、入れていただいた。今、ご指摘いただきましたとおり、確かにこの「中心的都市拠点の強化」と「コンパクトなまちづくりの推進と適切な土地利用の誘導」のところは関連もしていて、非常に重要なことが書いてある。そういう意味で、少しハードに偏った記述になっていることと、実現手段が、やはり外との接続も含めて、どの辺をやっていくのかがあまり明確ではないかという気もする。中心的都市拠点の強化は、戦略プロジェクトにも関わってくるところだと思うが、事務局でこの辺の書き込みについての何か考えがあったら、教えていただきたい。

（事務局）

- 今、会長からもご指摘いただきましたけれども、後ほどご審議いただく戦略プロジェクトの中でも、都市拠点強化プロジェクトを位置づけさせていただいて、都市拠点、特に中心的都市拠点となっております亀山駅を中心とした所の機能を強化して、その求心力を高めるという狙いを持ったプロジェクトを持ちたいと思っている。ソフトの部分を、ここの都市空間形成方針の中にどのように書いていくのかは、少し難しいと思っているので、主にハードを中心のような形で書いていっている。このプロジェクトの中におきましても、駅の周辺開発の推進と図書館の移転整理というプロジェクトをイメージしておりまして、そういうものを活用して、にぎわいの創出に繋がるハードの取り組みをすることと、そういう機能を生かせるようなネットワークの強化ということで、「都市機能と居住のつながりを生む交通ネットワークの強化」というプロジェクトを組ませていただいている。そうした中で、そういう側面的な取り組みもあって、こういうものが実現していけるという形になるかと思っており、都市空間形成方針としては、基本的にはあまりソフトの色は入れていないことが現状でございますので、そういう考え方で整理しているものとなっている。

（委員）

- 私も、都市空間形成方針のところの①、②、③も関わっていたのですけれども、基本計画も含めてずっと読んでいても、駅前に拠点を作りながら全体を繋ぐと、言葉では分かるのですけれども、それを読んでいても、もうだんだんさびれてきている旧来の中心市街地が、息を吹き返していくようなイメージにはなってこない。例えばネットワークを作って、図書館を駅前に持っていっても、例えば交通弱者といわれる子どもたちや高齢者が、本当にそこを利用できるのかという気もする。むしろ、今、図書館がある辺りは、歴史博物館もあり、青少年研修センターもある。あそこへ行くことによって、一点集中しているので、図書館の用事に行って研修センターへ寄ったり、研修センターに寄るときに図書館に寄ったりするなど、むしろ文化的な機能が集中していて、利用しやすさもあると思う。なのに、なぜ図書館だけそこへ行ってしまうのかという思いがある。駅前に、例えば人が移住するという面で、人がたくさん住むというイメージが全然イメージできない。駅近くに大きな市営住宅を建てたり、マンションを建てたとしても、亀山市内に住んでいる人がそこへ移るイメージもなかなか持てない。そういう中で、亀山市が一つの中心拠点に集中していくことと、いわゆる活性化していくイメージが、どうしても繋がってこない。何かそこだけを特化してしまって、駅前を中心に新しい再開発地域にするというイメージは旧来型の駅前再開発とつながるものであり、今まで議論してきたり目指してきた方向の具現化となることがそれなのかと、少し意外な気持ち。駅前の開発がいろいろな亀山の課題の解決に結びつ

く方向には、なかなかならないですね。

（会長）

- この部分については、戦略プロジェクトの方での議論になるので、今ここで結論を出さずに、引き続き議論していきたい。一つだけ、今、いろいろとやり取りを聞いていて思ったことが、「中心的都市拠点」という言葉が指す範囲について誤解が結構ある。文章だけ読んでいくと、何となく亀山駅の本当の周辺に再開発事業等をやるように聞こえてしまいがちなのですけれども、図を見ますと、「中心的都市拠点」はかなり広い範囲で指定されており、市役所や商店街も含まれている。なので、多分二つ論点があって、一つめは、駅の本当に直近だけではなく市役所や商店街も含めたエリアを呼ぶときに、「中心的都市拠点」と呼んで通じるかという話です。一般的にはもう少し小さいエリアを想定すると思うのですね。それと二つめとして、仮に言葉としては説明を付けた上で中心的都市拠点とするとして、その中のいろいろな方針として、これだけでよいのかという問題があるのかと思う。今、書かれていることは、主に駅前の再開発のことや、あとは抽象的に都市拠点の機能の充実と書いてあるが、それが本当に実現できるのかと、実現できそうだとは聞こえてこないという。もう少しこの辺を総合的にというか都市計画部門以外の部局も含め、中心的都市拠点というエリアを対象にいろいろと考えていることをうまく盛り込んでいけると、ここの印象が随分変わるのではないか。なお、今ここで、具体的にこういう中心的都市拠点を強化するために何をするかという計画を作っているわけではないので、その検討作業は後にしていきたい。

（委員）

- 大体、そういうことでいいのですが、今のままの表現でやはり気になることは、最初の①の２行と、16 ページの最後の２行のところを合わせて読むと、交通拠点、都市拠点が既に形成されているのでそこへ都市機能の誘導を行う、という具合にしか読めない。やはり今、都市機能を強化しなければいけないという課題があることを、もっとここで書いておかなければいけない。その上で、それを具体的には恐らくソフト事業なども含めて受けるのではないか。ここで、都市拠点が形成されていてそこへ誘導する、といってしまうと、認識自体が楽観的すぎる印象を受けてしまうので、そこを少し書き振りを工夫した方がよいのではないか。

（会長）

- 既に都市拠点が形成されているという現状の認識自体が甘いといいますか、むしろ、今かなりまずい状況なので、もっとこちらをいろいろな形で強化して頑張っていかないといけないという雰囲気を出すような記述が必要ではないかと。

（委員）

- それに向けてプロジェクトがあるという流れではないか。

（会長）

- やはり、ここの書き振りを修正しないといけないですね。

＜亀山市の今について＞

（委員）

- ５ページの下から２番めに、「学びと子育てを大切にしたまち」という形で、書き込みが書いてある。私がこの中にぜひ加えていただきたいことは、この４月から始まった認定こども園について、これは、今後亀山の大きな魅力になってくるだろうと思う。現状についていろいろな方にお聞きしますと、大変よいシステムだとの評判を聞いている。認定こども園は、今年１園が生まれたが、既にあと２園はプログラムに載って

いるはずであり、それらも含めて、ここの記述の中に、ぜひ認定こども園を入れていただきたい。

（会長）

- もう具体的に「認定こども園」という言葉を、ここに入れた方がよいですね。

＜まちづくりの基本方針について＞

（委員）

- 13 ページの「まちづくり基本方針」で「市民力・地域力が輝くまちづくり」と書かれており、「今後のまちづくりの基本方針と位置づける」ということですが、この辺が私どもまちづくり協議会から見ると、具体的なことが分かりづらい。こういうものはソフトの部分ですので、地域によって、全体で「こうだ」とはなかなか書き切れないと思うが、何かインパクトのある記述というか、こういうことでまちづくり条例を作った経緯もありますので、そういうことを強調するような文言が出てこないかと感じる。

（会長）

- 少し先走りますけれども、基本計画でこの具体的な内容については、資料２の目次を見ると、65 ページから「市民力・地域力の活性化」ということで、これをやっていくための具体的な内容を盛り込んではいる。ただ、それをまちづくりの基本方針として大きく前面に出すことに当たって、もう少し具体的なイメージが伝わった方がよいのではないかという部分ですね。

＜目指すまちのイメージについて＞

（委員）

- 12 ページの「目指すまちのイメージ」の四つめ、「子育てを楽しめるまち」の説明について、これが何回読んでも文がおかしい。誤字かと思うのですけれども。「市全体が子どもたちの成長を見守られる中で」とは、前後の文と繋がらない気がする。内容はよい。

（会長）

- そうですね。これは日本語としておかしいですね。

＜総括＞

（会長）

- いったんここで、今までに出た意見のまとめをさせていただいて、次の審議に移りまして、また時間があれば、ここに戻ってくることにしたい。今まで出た意見、この資料１のページの前の方からおさらいします。
- １点め、５ページの半分ぐらいのところですね。「『学び』と『子育て』を大切にしたまち」の中で、４月にオープンした認定こども園。これが１園めですけれども、これから２園、まだオープンする予定があるということなので、これをもう少し具体的に書けないかというご意見があった。
- それから、11 ページですね。「緑の健都」ということで、分かりやすい将来都市像を入れていただいているが、これは「健康都市」という意味と、それからいろいろやはり議論していく「健全都市」という意味もあって、より広い意味であろうと。いずれにしても、「緑の健都」といったときに、この意味を解説する必要があるので、今は３段落あるが、その次に「緑の健都」の意味を、なるべく幅広く捉えて解説していくことが必要になる。これは平成 37 年まで続く基本構想ですので、時代の流れが少し変わっても通用するように。例えば「持続可能性」という言葉は、それほど簡単にはなくな

らないといいますか、非常に幅広い重要な概念なので、そういう形で、ここは解説を加える必要がある。

- 12 ページですね。「子育てを楽しめるまち」の作文が、日本語としておかしいので、これは改めましょう。
- 13 ページの最後に「『市民力・地域力が輝くまちづくり』を、今後のまちづくりの基本方針として位置づけます」と書いてある。具体的には、基本計画の中で具体的施策を載せているが、これを前面に掲げるからには、もう少し具体的なイメージがここで伝わった方がよいのではないかというご意見があった。
- 16 ページの「都市空間形成方針」で、基本的な考え方の①、②、③に関わるところで三つぐらい問題があり、まず中心的都市拠点のエリアの範囲が、言葉だけ見ると、ひょっとすると誤解されるかもしれない。多分、他の分野別計画もあるので、この言葉を使わざるをえないのかもしれないが、その場合においても、どの範囲を示すのかの定義をきちんとした方がよい。それから２番めに、内容的にどちらかといいますとこれは都市計画系のハード整備の部分が中心になっているが、本当にこれを実現するためには、ソフトの施策を総合的にやらなければいない。本当にこれが実現できるのだと思わせるという、意志統一。そのためにも、都市計画系だけではなくて、他の部署が中心的都市拠点を舞台にいろいろ考えていくことを、なるべく盛り込む方がよいだろう。それから三つめは、記述の中で「都市拠点が形成されており」と何か誘導すればうまく行くのだと、やや楽観的な記述がある。どちらかといいうと、今は都市拠点の状況はあまりよろしくなくて、これから相当頑張って都市機能を集積して、そのために再開発を進めていくのであり、ハードだけではなくて、ソフトの取り組みも併せてやっていくのだということが、もう少し分かる記述がよろしいのではないかという点が挙げられていた。

(2)前期基本計画戦略プロジェクトについて

【事務局より資料説明】

（会長）

- 基本的な質問ですけれども、戦略プロジェクトは基本構想の中でいいますと、どこに入ってくるのでしたか。基本計画に入っているのでしたか。

（事務局）

- 基本計画の中に入ってくる。今、目次には入れていないが、一番頭の部分の「まちづくり編」が始まる前の最初に、四つの戦略プロジェクト位置づけなども含めて示させていただきたい。

（会長）

- これは前期基本計画の冒頭に来るということですね。

（委員）

- 第１次後期の戦略プロジェクトと対比して読んでみたが、その中で大きな変化があると感じたことは、実は防災である。今までは、戦略プロジェクトとして、町の防災力を高める「まち守りプロジェクト」で、「都市の防災力を高めます」と、７施策がぶら下がっている。また、「市民の防災力を高めます」と、この中に５施策が連なっている。現状において、大変安心できる世界になったというならば別ですが、震災等のリスクが高まっているこの時期において、この防災のところをプロジェクトから外したことが非常に疑問に思っている。また、これは次回からの審議になると思うが、前期基本計画も全部読んだが、この中も防災色が非常に弱くなっている。リスクが高まる中で

	何を考えているのかと大変厳しい思いを持った。昨今よく議論されているが、防災の避難所の関係について、要援護者の名簿をどうするかということで、ここ２、３年くすぶっている。ふろしきは広げたけれども、ふろしきを包むことができない状態が現実にあるわけで、そういうことを含めて、この防災につきましては、やはりもう一度考えていただいて、戦略プロジェクトという、強い、将来横断的に取り組むような仕組みがあった方がよいのではないかと思う。 （会長） • 防災力について、今回の計画で戦略プロジェクトからなくなってしまって。どちらかというと、人口戦略との関係で定住に重きを置かれるようになってきて、他の自治体でもそういうことが起きて、防災を忘れてしまったのかと言いたいときもある。亀山市も、少しその傾向があったかもしれないですね。ここで決められることではないが、審議会の意見として、やはり防災力向上はとても大事なので、例えば五つめの戦略プロジェクトに加えるという提案もできるだろう。この基本計画の中で、きちんと書いていくことになると思いますが。 （委員） • 今、会長がおっしゃったように、プロジェクトから抜けたものを、基本計画で補完できているという視点で読みましたが、補完できていない。逆に弱くなっている。そうすると、もう亀山は、防災は別の方を向いているのかと思わざるをえない。 （会長） • 事務局にお伺いしたいが、多分いろいろ議論があって、この四つの戦略プロジェクトが決まったと思うが、防災について、あえてプロジェクトから外すという背景やどのような議論があったのか、教えていただけないか。 （事務局） • 今回の戦略プロジェクトを作っていくときに、まず前提として、第１次後期のプロジェクトをどのように変えようかという考え方で作っていない。新しい第２次総合計画になり、新しい将来都市像ですので、それに向かって作っていく「緑の健都かめやま」に向かってやっていくべき戦略的な視点を考えて、そのあと出てきたということで、結果的に抜けたのが実情かと思う。当然、おっしゃっておりますように、防災が重きではなくなったということではないかとは思う。けれども、現実の亀山市の防災上の状況を考えたときに、５年前より安心できる状態になったのかというと、決してそうではないだろうとは思う。ですが、他市に比べると、比較的防災上のポテンシャルの高い土地柄だとも、逆にいえる部分もあるかということはある。現状の案としては、防災は今回のプロジェクトとしては出ていなくて、これは会長からおっしゃっていただいたように、持続性を将来に向かって考えてきたときの、定住や人口のところに重きを置いたような視点になっているところは、現実に今の案としては、そういう状況になっていると考えている。審議会の中でご議論いただいた意見を踏まえ、どのように対応していくかを考えさせていただければと思う。 （会長） • 経緯は、今の説明でよく分かったと思う。ただ、皆さんの実感として、では防災力はもう備わって、いろいろな災害には大丈夫だと自信を持っていえるかといいますと、そうでもなさそうだということだろう。 （副会長） • ポテンシャルが高いと言われますが、地域の中で防災についていろいろ議論をしている状況の中で、自分だけの力で、もしくは自分たちの力で助け合って、防災を減災に

	していく取り組みは、正直いってほとんどないという状況だと思う。一番大事なことは、災害が起こったときに、行政に頼るのではなくて、基本的には自分たちの力でやれることをやるのだという意識改革がない限りは、防災力の高まりはほとんど期待できないだろうと思う。そこの部分が、今、亀山に欠けている状況の中で、やはり行政だけがやることで足るという考え方だけで、こういう基本計画が作られるのではなくて、基本構想に「市民力や地域力を生かす」という記述もあるわけですから、「一緒にやっていくのだ」という部分が明確に出ていくような１０年間の基本構想であってしかるべきだろうと、私は思う。それが一番大事なものが、やはり防災力だろうというぐらいの感じを受けている。 （委員） • この四つの戦略プロジェクトは、繋がってはいると思う。例えば、子育て応援プロジェクト。若い世代が、亀山で生まれ育った人が亀山に住むにしても、新しく亀山に流入するにしても、子育ての支援が十分だというだけで選択する場合もあるかもしれない。けれども、多くは食べていくための働く場があるかということが大きくて、外へ出ていく方は、多分それが大きいのだろうと思う。生まれ育った人が亀山に住む場合に、亀山から通える範囲でこれを求めるのと同時に、亀山で起業したり、亀山の中に雇用が生まれることも、やはりどうしても必要だろう。新しい人が流入してくるならば、なおさらそこが大きな魅力になると思う。今まで田園回帰などといわれたり、若い人たちが魅力のある地域として一定のまとまりを持って移り住んでくるところは、何か共通している面白さがある。例えば亀山市の商店街を活性化することなども、そういう若い人がいないことはなくて。でも、それが一つの力になって、プロジェクトを立ち上げるところまでは行かない。結構ばらばらでいたりする。今日、若い人で農業をやりたい人も、いわゆる攻めの農業、納得の行く農業や、荒廃している耕作地を再生したい、有機でやりたい、自然に優しい持続的なことをやりたいという傾向の農業をやりたい人が多い。そういう意味では、若い世代が、新しい時代を切り開いていくことと結びつけて亀山市を選ぶという魅力を打ち出すところが、もっとあってよいのではないか。つまり、子育て応援プロジェクトというのでは狭いというか、第１次総合計画のときは、若い人の定住を図るために雇用をいうことがあったりするので、もう少しこれは広げてもよいのではないかという気がする。 （会長） • 今おっしゃっていることは、子育て応援プロジェクトの持続性の視点のところですね。そこに雇用や商業性や農業など含めて書かないと。これは「持続性の視点」と書いてあるのですけれども、定住の視点ぐらいの内容なので。持続性は、もっと広いですよね。その辺を少し考えないといけないのかもしれませんね。 （委員） • 先ほど、防災の話が出てくるのですけれども、震度７以上の地震が起きたときは、この危機管理室が最初に倒れるのではないかという思いがある。「亀山駅周辺再開発の推進と図書館の移転整備」とあるが、これは庁舎の移転整備に変えた方がよいのではないか。 （会長） • 市庁舎の移転は、前回の後期計画を作るときにもさんざん議論した。ただ、やはり防災の観点から見ると、少なくとも災害時、緊急時のヘッドクォーターのような機能が確保できないのは相当まずいのではないかというところがあると思いますね。おっしゃるとおり、駅前で再開発をして、新しい建物もできるので、そういう所に機能を移転することもありえるといいますか、企業ならば普通にやるのではないかという話だ

	と思いますね。 （委員） • 都市拠点強化のプロジェクトとは、実は今、委員がおっしゃったことを指すと思っていた。そこの中身を読むと、「ＪＲ亀山駅周辺のにぎわい」や「交通ネットワークの強化」がぶら下がっていると。「拠点」の意味を、交通に絞ったような感じに受け取った。これからリニアが、駅前が今から広くなって、市役所でも造ってやっていくぐらいの夢のようなことを、やはり 10 年の中で揉んでいってほしいと思う。「拠点強化」の意味と中身がアンバランス。 （副会長） • 賛成。 （会長） • これについては、事務局が答えにくいかもしれませんけれども。多分、想定される議論の内容だったと思うので、もしお考えといいますか、今までの議論・経緯などがあれば、お話しいただきたい。 （副会長） • 前期基本計画の 77 ページなのですけれども、「公有財産の効率的・効果的な活用」の黒のひし形の２番めに、「行政サービスの提供や防災など行政の中心拠点となる新庁舎建設に向けた検討を行います」とある。これは、随分市長とも議論した中で、そういう書き込みを今回初めてさせていただいた。正に災害拠点となるような庁舎の建設に向けた新たな書き込みであると、私どもは認識をしている。その中で、今回拠点強化の視点の中に、庁舎建設の問題が書き込めるかどうかも、検討いたしたのだが、やはり庁舎については、まず基本構想を作り上げていくことになるので、今回のこのプロジェクトは、あくまでも前期基本計画の５年間のプロジェクトということで、庁舎建設については、中心になる時期はもう少し後になってくるかという認識のもとに、今回これが入っていない。ただ、市としては、このような記述をさせていただいて、新庁舎に向けては、一歩新しい考え方で記述をさせていただいたことは、ご理解いただきたい。 （委員） • 今おっしゃったように、一歩踏み出したことはよい。でも、一歩では足りないのですよ。この中に、時間軸でいつまでに何をやると書いていないではないですか。このままならば、また何年かたったときに同じような答えをいただいたら、われわれは何を信じたのだと、僕は後世にとても禍根を残すような気がしてならない。 （会長） • 今までの市役所の中での議論は、よく分かる。確かに一歩進んだと感じるところもある。だが、やはり、急いで検討する必要があるわけですよね。やはり一番急がなければいけないという意見が出ている背景には防災のことがある。ただ、市内でビッグプロジェクトを展開するときに、いっぺんにはなかなかできないので、まずは、具体的な検討が進んでいる、駅前の再開発が大きいと思う。その次に、多分市庁舎の建設があるかもしれないけれども、それを待っていると、また 10 年以上かかってしまう可能性がある。少なくとも、防災機能については、やはり急いで何かを検討する必要があるのではないかということかとは思う。その辺はやはり戦略プロジェクトに、といいますのは、戦略的にとにかく「こういう手順で早くやる」という優先度の高いプロジェクトがここに掲げられるわけなので、市民の関心からいえば、市役所の特に防災機能の強化は入るべきだという意見かと思う。

	（委員） • 戦略プロジェクトの内容は学びや教育の部分が弱いように感じる。現在の図書館は蔵書、閉架書庫のスペースが狭く劣悪な状況になっていて整備が必要である。今の場所ではスペースの問題や法的な問題があって改築できないと聞いているので移転も考えた整備も必要だと思うが、戦略プロジェクトの「亀山駅周辺のにぎわい再生」に図書館の移転整備が入っているところに、違和感を覚える。にぎわいのためではなく、学びや教育のために図書館を作っていくということが大事だと思う。図書館の本来あるべき姿を忘れずに進めていただきたい。 （会長） • この辺は多分、僕の推測も入りますけれども、最近、図書館の機能もだいぶ変わってきていて、そのよい面・悪い面が出ているのだろう。やはり、本来の学びの場としての機能が大事なので、それを忘れないでいきたいのは、ごもっともな意見である。にぎわい再生のところに入れたのは、多分、最近民間企業とコラボする図書館もあり、いろいろなメディアセンターとしての機能もあり、それが中高生のたまり場になっていて、にぎわいが確かにあるということも実際にあって、いろいろな複合的な効果があるかと思う。その辺が、少し本来の図書館の機能が忘れられて、にぎわい再生のところに入っているような気もするので、その辺は少し整理が必要かもしれない。 （委員） • この四つのプロジェクトの中の、先ほどから話が出ております、「亀山駅周辺のにぎわい再生」というところが分からないのですが、見ておりますと、私も認識不足かも分からないのですけれども、「リニア」という言葉が出ていない。ゆくゆくは、亀山もリニアの中間駅とか何とかと聞いている。亀山の駅前の「にぎわい」や「建物」や「再生」という言葉の中に、リニアは関係ないのでしょうか。リニアは、亀山にとって期待していることばかりですので。 （会長） • 事務局にお伺いしたいのですけれども、多分、リニア新幹線のルートの問題と駅の場所の問題と、それから多分時期の問題など、いろいろあると思う。リニア新幹線は、確かに亀山にとって非常に期待していることであり、決まれば、それをてこにして、いろいろなことをやっていくチャンスがあると思う。今回この辺があまり強調されていない背景を教えてもらえないか。 （事務局） • リニアについては、亀山市にとっては、非常に大きな要素といいますか、町の形に関わる部分ではある。そういう認識を持っていて、今まで取り組んできた活動も、それを表してきているものだと考えている。今回の前期基本計画での位置づけとしては、まだこの前期の５年間の中で実質的に取り組んでいくタイミングではなく、基本計画の中では、初めてまちづくりの研究的なことを取り組んでいくものとして、「リニアを核としたまちづくりの研究」と書き込みをしている。それは既に中津川や飯田など、先行している所がある。それを踏まえて、ではこの亀山市では、リニアを生かしたどのような町が作れるのか、作っていかないといけないのかという研究は、当然ながらこの前期の５年間の中で大事な部分であると考えている。ただ、戦略プロジェクトの中においては、その優先度的に見て、位置づけてはきていないという経緯である。 （委員） • 今の皆さんの議論を聞いていて、この戦略プロジェクトをどのように導き出したのかが、恐らく少し弱いのではないか。例えば、防災がなぜ入っていないのか。また、教

育がなぜ入っていないのかは、これを読んでも分かりませんよね。ということは、恐らく、この５年間に優先度を上げて、他のものを少し犠牲にしても資源配分をして、早くこの５年間のうちに何とかしなければいけないものは一体何だろうということで、ここに位置づけられるわけですが、それがなぜ「持続性の視点」「拠点強化の視点」「健康の視点」「ふるさとの視点」なのかは、この１ページだけを見ていたら分からない。やはり今、将来都市像、基本構想で掲げた「緑の健都」を作っていくためには、「こういうところがウィークだから急いでやらなければいけないのだ。だから、そこから導きだしてくると、こういうことなのだ」ということを導き出していかないといけない。あるいは、それが分かるように書かないと、市民からは「ああ、なるほど。これが戦略プロジェクトで優先的にやるのだね」と理解ができない。これを書いていくと、ひょっとしたら防災が入ってくるかもしれないというところで、もう一度、なぜこれを選ぶのかをご検討いただかないと、今のような議論が、これからも出てくることになる。それはお願いした方がよいのではないか。

- それからもう１点は、もうどなたかがおっしゃっていたのですが、まず持続性の視点が出てきた、あるいは拠点強化の視点が出てきたということで、その下に書いてあることが、その戦略プロジェクトのアウトカムにならなければいけないわけですよね。そうなると、それぞれのプロジェクトが少し狭い気がする。持続性で「若い世代が定住する」とは、それは子育てだけに特化するのかというと、やはり最初に持続性の視点で提起したものとプロジェクトとの中身と弱くなっている。他のところも、それぞれいえると思うが、かなり狭く絞っている。これは、優先度が高いものをやるのに、今度はすることを絞ったということなのでしょうけれども、それにしても、この２ページめの戦略視点から施策横断をして引っ張り出してきたという認識では、例えば最初の子育て応援プロジェクトで「縦割りの子育てを楽しめるまち」と、ほとんど同じになってしまう。やはり他のものを使いながら、例えばすぐ思いつくのは、子育てを応援しようと思ったら、実は企業活動などが非常に重要なのですよね。例えば「イクメン」がありますが、実際残業をしていたらできないですよね。そうすると、やはりライフサイクルのようなことをきちんと、普段は５時に父親も帰ってくる。お母さんが働きに行って、父親があれしても、もちろんよいわけですが。それにしても、やはり５時に両親とも帰ってこられる状況でないと、いくら保育サービスをやっても、なかなか子育て応援にならないという現実もあるので、そうしたらそこをどうするのか。例えば、優良な企業をたくさん認識していますが、そういう所へ何人か働き方のようなことをキャンペーンする。そのことによって、逆に企業もそういうキャンペーンをしているから、優秀な人材がたくさん集まってきて、産業が活発になるような。例えばそのような総合性のようなことを、持続性の観点にも盛り込むところに、戦略プロジェクトの２ページめの横割りの意味があるわけですから。持続のために子育てを応援しにいこうかというならば、それぞれ施策は何をやらなければいけないのか。縦割りの方で何をやらなければいけないのかということを集めて、縦割りの中で効果を出すと同時に、子育て応援にもなっているという取り組み方をするような方法を盛り込んだ方がよいか。「これだけは」と絞ることも一つのやり方ですけれども、もう一つはそういう総合性のような形でやることも、一つの方法ではないかと思っｔ。

（会長）

- 一つめのご意見は、これが導き出される経緯といいますか、どのような考え方でこの戦略プロジェクトが出てきたのかという説明は、やはり必要だということ。それから二つめは、内容的にやはり少し薄くて、ピンポイントで、特に重点的にやれることを、ピンポイントに列挙しているのだと思うのですけれども、やはりもう少し目指している社会、都市を目指すときに、もう少し総合性がないと伝わらないのではないかとい

	うご意見だろう。 ・ それに関連して、この四つの戦略的視点が、それぞれ独立的に四つのプロジェクトに編集して繋がっているところに、無理が出てきているかという気がする。これは、どちらから検討するかにもよるが、例えば四つのプロジェクトは、これから前期基本計画の期間の中で、予算を重点的に配分したり、職員をどこに重点的に配置するかが、おおむね決まっているというか、そういう意識でもって掲げているプロジェクトだと思う。それは、ここに防災を入れるかどうかという議論があるが、多分いろいろな視点から、それぞれのプロジェクトが成立しているのだと思う。例えば都市拠点強化であれば、拠点強化の視点よりは、これもやはり都市全体の持続性にも関わり、魅力的な都市拠点があれば、外から「亀山に住もうかな」と思う人も出てくるので、人口維持の視点というか、定住の視点にも関係するだろう。市役所の防災機能が心配なわけなので、もし防災の視点やあるいは防災・減災の視点を視点として加えれば、それもやはり都市拠点強化プロジェクトにも繋がっていく。今日、議論したことは、やはりいろいろな視点が大事だということだったと思う。だから、対応策の一つの案としては、視点の四つではなくて、結構多めにいろいろな視点を列挙してみて、それがプロジェクトに１対１ではなくて、複層的にというか、いろいろクロスしながら、都市拠点強化のプロジェクトを進めるに当たって、さまざまな視点を持って全庁的に取り組むべきなのですよ、と分かるようにすることも一つの対応策かと思う。いずれにしても、プロジェクト自体は、やはり予算の裏づけや人をそこに割けるかということがあるので、それはそれで。あまり細かい議論してもしかたない部分があると思う。視点のところは、やはり何をやるにしても、同じお金と人をかけるにしても、「こういう視点でここをスマートにやりましょう」というところなので、それは少し構成を変えてもよいかという気はする。 （副会長） ・ 「生き生き健康プロジェクト」の最後に「地域包括ケアシステムの構築」と書いてもらってあるが、これがいつまでたっても、僕は自分が社協をやっていてもよく分からない。要は、医療と福祉が一体化していくようなイメージの包括のケアであり、それを地域の中で、各家庭などに行ったり、在宅での医療などを全部包括している中身だと思う。この書き方だけで、ほとんどの人は理解できないのではないかと思えてならない。どうせ出してもらうのならば、もう少し「こういうことをやりますよ」という形で書いていただいた方が、分かりやすいだろうと思う。なんせ含まれている内容が大変多くあるので、多分このように短くていらっしゃる気がするのですけれども。見る方に見ていただいて、よく分かるようにだけはしていただいた方がよいのではないか。 （会長） ・ 私も、地域包括ケアシステムの具体的な内容は、実はあまりよく理解できていないところもあるが、これをもう少し具体的に「こういう内容をやっていくのだ」という説明はしていただけるか。 （事務局） ・ 今は骨子で出させていただいているので、もちろん最終的にはもう少し詳しく書かせていただく。 （会長） ・ 今日、配っていただいた資料は、もちろん修正したうえだが、もう少し内容的にも肉づけされると考えてよろしいか。

	（事務局） • はい。 （委員） • 私は戦略プロジェクト案をいただいたときに、実はこのように読んだ。ここに横串の色が、緑、茶色、ピンク、黄色となっている。今度は、縦串もそれぞれ色づけしてある。だから縦串と横串、例えば黄色の「ふるさと磨きプロジェクト」を読んだときに、この黄色と黄色はそれぞれ繋がっていると。しかしお聞きすると、どうもそうでもない。確認しましたところ、この色は色づけだけであって、意味を持たないということであるらしい。だから、逆にやはり絞るというと、縦串の所のこれとこれが、ここのプロジェクトで連鎖するのだという形に書き改めると、先ほどのところが少し見えてくるのではないかと思う。 （会長） • この図が出てきて、色を対応して見るとは、かなり深い読みだと思っていた。僕はテッキリ見ていなかったが、多分そうはなっていない。以前に検討段階の資料を見せていただいたときには、この中に丸が打ってあった。基本計画のどの施策がこの四つの視点やプロジェクトに深く関係しているか、広く見ればほとんど関係しているのですけれども、特に重点的なものについて丸が打ってあった資料がある。それをやめた経緯が多分あるので、事務局で、この辺をどのように見直してこのようになっているのか教えてほしい。確かに、関連が分かるように点を打ってあった方が、逆によいのかもしれない。メリット・デメリットがあるとは思う。 （事務局） • もともと当初に出させていただく予定のものでは丸つけをして準備をさせていただいていたが、庁内での検討の中で、例えば丸をつけたときにそれぞれの縦の割りと関係の深さがまちまちであり、どこまで丸をつけるのか、一定の法則的につけることがなかなか難しく、逆に誤解を生むのではないかと。「これは関係あるはずなのに、丸がついていない」あるいは「これに丸がついているけれども、それほど関係しないだろう」と、いろいろな見方がある中で、最終的に丸を取って、すべてを横串にする形で、広く読めるようなイメージにさせていただいたという経緯がある。そういう形で今の形になっているのが、現状の資料ということになっている。 （会長） • 加えて、市役所の中の体制とも関係すると思うが、例えば、もともと途中の段階であった丸が打ってあるものだと、結局前期基本計画の施策のまとまりは、市役所の組織とおおむねリンクしているだろう。だとすれば、そこに丸が打ってあれば、例えば都市拠点強化プロジェクトに「公共交通網の充実」と関連づけて丸が書いてあれば、公共交通の仕事をしている市役所の人で、スタッフが都市拠点強化プロジェクトにも参加していて、例えば、住環境の向上について、再開発は住宅を増やしますので、住環境の向上のスタッフともいろいろ意見をしながらやるように、体制も実は見えてくる部分があるのではないか。審議会として、やはり関係性はもう少し明確にした方がよいだろうか。体制のこともあまり書いていないので、それも対応した方がよいのかという意見もいえるとは思うが。今、ここで判断はできないと思うので、その辺を少し検討事項にして出しても良いと思う。 （委員） • 先ほど申し上げたことと関連があるが、こういうものを作るときには二つのやり方がある。一つの視点で、要するに縦割りのものから抽出していって、「５年間これで頑張

りましょう」というものを取り出していく、「プロジェクト」と名前はついていますが、重点事業ですよね。「これはウェイトを置きましょう」というものを抽出していくやり方。今出ているものは、恐らくそれに近いやり方なのですが、もう一つは、先ほど申し上げたのはそちらですが、総合性のようなものを発揮するために、部局横断的に「今、子育てが大事だから、他の部局も取り組んで」と子育て部門以外のところにも呼びかけるやり方。プロジェクトといっても、二つ性格が違うと思う。ひょっとして抽出されるだけであれば、丸をつけてしまった方が、「これを抽出してきました。この視点で見て」と、かえって分かりやすいかもしれない。総合計画を作りますと、市役所全体にいろいろなことを、これで呼びかけるという、総合計画部門、企画部門がありますので、どういうメッセージを出すのかということとも関係する。それで重点化をするということは、予算配分上のことですから、どちらかといいうと財政を通して、そこに資源配分強化をするという役割を担うが、総合化をすることになれば、全庁的に「これは頑張ろう」ということで、「私のところは、これを子育ても絡めて頑張りますから」というと、他の産業部門なども少し予算がついたりする効果がある。そのどちらをやるかで、全然違ってくるので、どちらかをまず選択して、そうすると、書き振りも違ってきて、この横串の図の描き方も少し違ってくると思う。総合化をするならば、丸は書いたらいけない。図示のしかたでメッセージも違ってくる。まずそれを事務局ではっきりどちらにするかを決めて、それでこちらへまた意見をもらわないといけないだろう。こちらからは、どちらがよいとは言いにくいのではないか。

（会長）

- だから、どのようにこれが抽出されたのかと、それからどのように進めていくのかに関わるので、どちらがよいかと言われても、今は審議会としては意見を言いにくい状況なのだろう。その辺は、もう少し検討していただく必要がある。事務局にお尋ねするが、総合的ないろいろな検討の中から、これとこれはテーマとして重要なので、それを掲げていろいろな部局が関連する部分に「この指とまれ」方式でついてくるような構成のしかたなのか、それとも、前期基本計画の施策が整備されていて、特にここはもう予算を重点的に配分することが決まっているので、それらを集めて一つのパッケージとして重点プロジェクトを構成したのかによって、書き方が変わってくるという話だったのですが、その辺について、現時点の事務局の体制や考え方があれば、お聞かせください。

（事務局）

- 根本的には、どちらかといいますと後者のイメージが強い。骨組みは、もともとそういうコンセプトの中で整理をしているが、やはり狭すぎるのではないかという意見が若干ある。それを広げにかかっているので、少し分かりづらくなってしまっているかというところが、正直なところだろうと思う。そこは、今日いただいた意見を踏まえながら、もう少しどちらかはっきりする形の整理のしかたをさせていただかないといけないと考えている。

＜総括＞

（会長）

- 今から資料３についての審議会としての意見を総括したい。
- まず一つは、最後に議論したように、この戦略的視点や戦略プロジェクトがこうして出てきた経緯や位置づけを、はっきりさせてほしい。その説明が、やはり冒頭で必要だろう。そのときに、この重点プロジェクトを導き出すアプローチとして二つあって、

	一つは、総合的ないろいろな検討からテーマを設定して、「この指とまれ」方式で、いろいろな施策をつけていく形。二つめが、施策がベースとしてあって、重点的にやるものを決めて、それをパッケージ化させてプロジェクトを構成するもの。今のやり取りだと、どちらかというと後者ということだったので、それならば、そういうことが分かるようにするべきだろう。施策とプロジェクトの関係の図についても改善の余地があるだろう。 • ２点目は、防災力に関することが少なすぎる。やはり市民の問題・関心としては、防災力があるので。地震だけではなくて、気候変動で集中豪雨が降るようになったり、水害に関することもあるので、その辺の防災力について、戦略プロジェクトの中に位置づけることができないだろうかということが２点目。その中で、市役所の緊急時のいろいろな対応をきちんとやらなければいけないので、それは市役所の建設を中長期的に考えているのでは、やはり間に合わないだろう。だから、早くこれに取りかかるべき。防災力・防災機能に関しては、やはり前倒しで何か対応する必要があるのではないかという強い意見が、審議会としてはあった。 • ３点目は、子育て応援プロジェクトで、そもそも「持続性の視点」と書いてあるが、人口維持や定住の視点ではないか。そうなると、子育て応援プロジェクトは、ここに書いてあることだけではなく、雇用について書くことも必要になる。その中で、子育てに関連して働き方を改めていかなければならない。雇用や商業の活性化、農業の新しいやり方についても、実は定住や人口維持に関連しているので、その辺はやはり膨らませて、より内容を充実した方がよいのではないかというご意見があった。 • 四つめは、図書館に関することで、都市拠点強化プロジェクトの「にぎわい再生」の中に図書館が書いてあるが、そもそも図書館とは学びや教育の場である。それをきちんと言うべき。 • 他の意見としては、リニア新幹線のことが書いていないのが不思議だという話があった。これについては、駅の位置がまだはっきりしていないのと、期間が相当先であることから、まだ重点プロジェクトとしては書いていないが、前期基本計画にあるように、リニア新幹線の誘致を引き続き頑張ることと、いろいろと停車駅を踏まえたまちづくりについて研究すると記述しているので、この部分はきちんと大事にしていこうということになっている。 【村山会長よりあいさつ】 【事務局より次回審議会の案内】